

# 「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果」について

【富里市 小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

## 2 本市児童の調査結果

本市児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

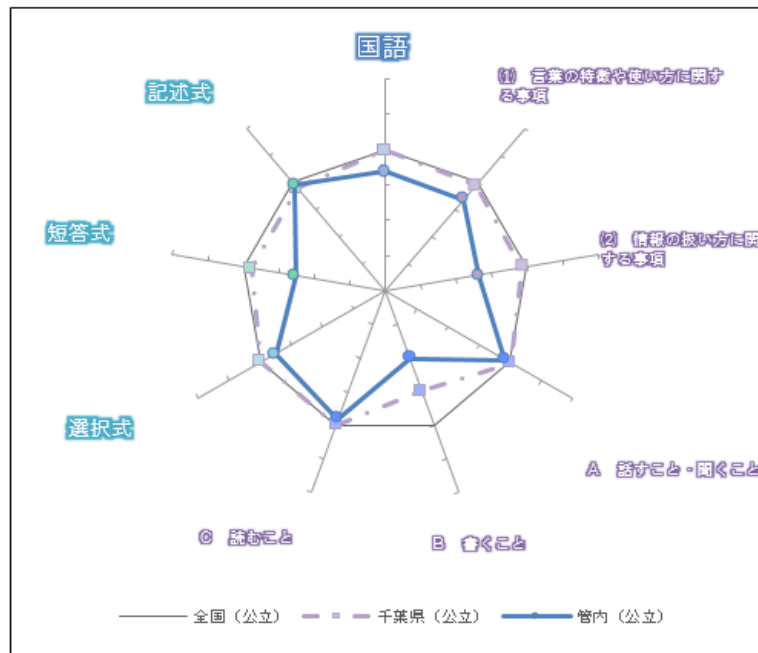
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



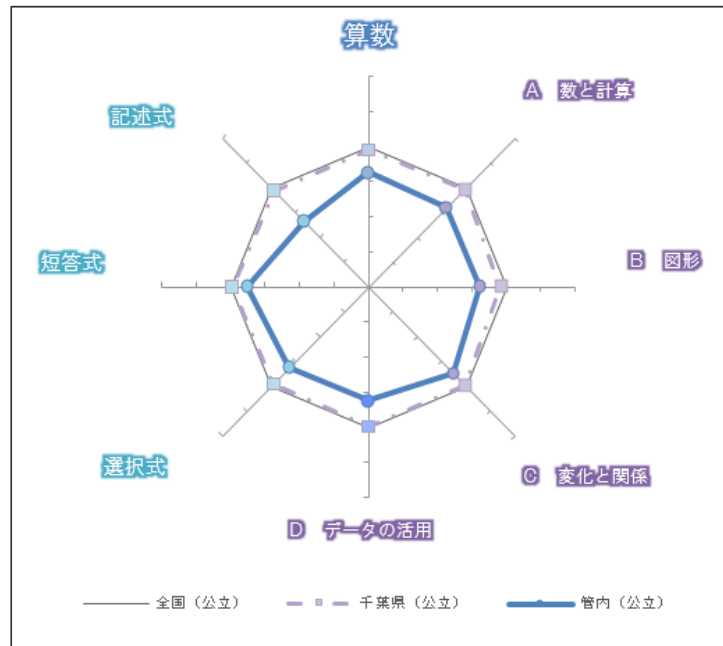
#### 【特徴と現状】

- 国語科全体の平均正答率が、全国の平均正答率と比較して下回っていますが、経年分析を見ると令和3年度から令和5年度で全国の平均正答率に近づいています。
- 「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率が、全国の平均正答率と近い値になっています。経年分析を見ると、全国の平均正答率に近づいています。
- 「意外」や「期間」といった漢字を書く設問の正答率が低く、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて課題があります。
- 「情報の扱いに関する事項」の正答率が、県平均や全国平均を大きく下回っており、原因と結果など情報と情報の関係について理解することに課題があります。

#### 【改善方策等】

- 漢字を正しく書く力については、「とみの国検定」や日頃のドリル学習を継続して行い、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるよう確実な定着を目指し、ドリル学習を充実させてまいります。
- 文章全体の構成を捉え、情報と情報の関係の位置づけの仕方や図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し自分で表現できるように授業改善を図ります。また、「読む」力の向上を図るために、引き続き読書活動を推進してまいります。
- 書く能力の向上のために、「とみの国検定」の「視写」を通して学びの下支えとなる力をつけさせ、様々な学習において「自分の考え」を理由とともに表現する時間を増やし、自分の言葉で表現する力の向上に努めます。

## 算 数



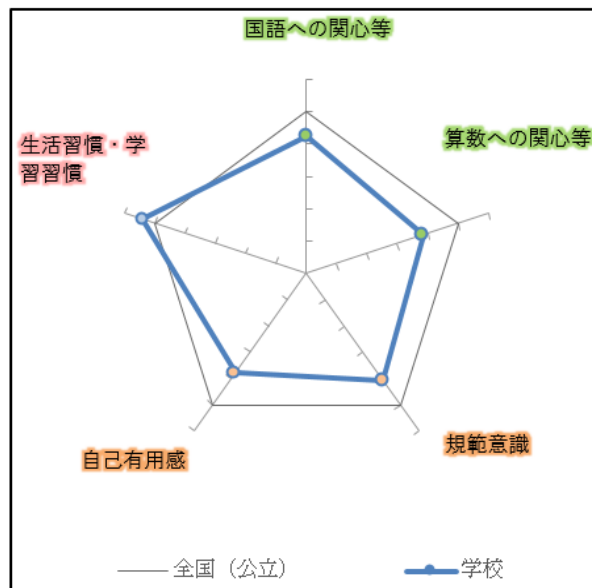
### 【特徴と現状】

- 算数科全体の平均正答率や「数と計算」、「図形」「記述式」の平均正答率が、全国平均と比較して下回っていますが、経年分析を見ると全国平均正答率に近づいています。
- 「データの活用」の平均正答率が全国平均正答率を下回っています。「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるが、見いだした違いを言葉と数で説明することに課題があります。
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうか、百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる設問の正答率が全国平均を下回っており、この点に課題があります。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる設問の正答率が全国平均を下回っており、この点に課題があります。

### 【改善方策等】

- 『とみの国』検定や日頃のドリル学習を継続して行うことで基礎基本の確実な定着を図り、加法と乗法の混合した整数の計算を正確に解くことができるよう、指導を工夫・改善してまいります。
- 問われていることが何かを適切に判断するためには、問題文を読む力が求められます。引き続き文章を読んで要点を正しく読み取る指導を心がけてまいります。
- 示された資料から見いだした違いを言葉と数を用いて説明できるように、授業において説明する場面が増えるよう、指導を工夫・改善してまいります。
- 小学5年生で学習した内容（百分率等）を活用し問題を解くことができるように、授業内において既習事項を振り返る時間をとり、定着できるように指導を工夫・改善してまいります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答している児童の割合は、全国平均を上回っています。学習における ICT 機器の活用のさらなる充実が図れるように取り組んでまいります。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に対して、35%が「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答していました。授業における「思考し表現する力」を高める実践プログラムの「広げ深める」の活動が充実できるように支援してまいります。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）質問に対して、35%が「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答しており、自分で学習計画を立てることが困難な児童が一定数いることがわかりました。中学校に向けて必要な力となりますので自分で学習の計画が建てられるように、支援してまいります。

### 3 まとめ

国語科全体の平均正答率や「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率、算数科全体の平均正答率、「数と計算」、「図形」「記述式」の平均正答率が、経年分析を見ると全国の平均正答率に近づいているので、学力向上のために各校で取り組んできたことの成果が表れてきたものと考えられます。

今年度より内容を刷新した『とみの国検定』の内容を継続して行い、子どもたちの学びの下支えとなる基礎基本の確実な定着を図ります。引き続き、各学校において学力向上のための取組を推進してまいります。「記述式」の正答率が全国平均に近づいているので、国語科だけでなく他教科においても文章を書く活動を充実させ、自分の考えをまとめる力がつくように日々の授業の工夫・改善に努めてまいります。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、92%が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答していました。各家庭におかれましても、子どもたちの将来への意欲を大切にさせていただくとともに、規則正しい生活・学習習慣を身につけられるよう、引き続きご支援をお願いいたします。